

# 南の風 450

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

さて、今回はジョン・ウッデン氏の言葉から、私がたいへん勉強になったことについて書きます。

「準備に失敗することは、失敗する準備をすることだ」ということです。

毎回やっている練習が、試合へ向けた準備になっていなければ、それは試合で失敗するための準備をしているのと同じなのです。今現在やっている準備は、将来成功するための準備になっているかが大切になるのです。

『トライアングルパス』という練習があります。それは試合でパスが成功するための準備でしょうか？

トライアングルパスをしていればいつかパスがうまくなるだろうという、安易な考え方は試合に対する準備ができていないのと同じです。

相手が手を下すまでもなかった。自滅です。※断っておきますが、トライアングルバス 자체が悪い練習だと言っているのではありません。基本を定着させるため（キャッチやパッシング）には必要かもしれません。ただ試合で成功させるための準備かどうか、ということです。

準備に失敗すれば、待っているのは自滅です。卓越したチームは準備をおろそかにはしません。それは、準備が成功につながると分かっているからです。では、準備さえしていれば必ず成功できるのでしょうか？ それは違います。必ず成功するという保証がないのが、スポーツの面白いところです。どれだけ準備をしても、し尽くすことはありません。相手は自分たちのチーム以上の準備をしてくるかもしれません。そんな不確実性の中にドラマがあるからこそ、スポーツは非日常的なものになり、観ている人たちに感動や興奮を与えるのです。

準備に失敗している段階では、勝敗を語る資格はありません。準備に失敗するということは、ベストを尽くさなかったということになるのです。

しかし、自分たちのチームが知り得ないことを成せなかったのは、失敗ではありません。それは、ベストを尽くして準備に成功したが、相手がその準備を上回ったのです。ただそれだけです。

どれだけ完璧な準備をしたところで、勝利を保証してくれるのがスポーツです。では、完璧な準備をしたところで勝利が保証されないのなら、準備に時間をかけるなんて大した意味がないのでは？ と考えるでしょうか？

残念ながら、勝利の可能性を最大限に高めるためにできる唯一の方法が、準備に全力を傾けることなのです！

確かに、大した準備をしないで臨んだ試合でも勝利を収めることはできるかもしれません。それは、単に相手も自分たち以上に準備をし損なっていただけかもしれません。それを成功とは呼べないです。

プロ野球ヤクルトスワローズで3回の日本一を達成した、故野村 克也監督は、「私のことを I D 野球の元祖」というが、I D (Important Data) 野球とは準備野球のことだ。準備を怠れば待っているのは敗者への道」と言っています。

どの競技、あるいは組織においても、『準備』に全力を挙げることは極めて重要なのです。